

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成22年8月26日(2010.8.26)

【公開番号】特開2008-33328(P2008-33328A)

【公開日】平成20年2月14日(2008.2.14)

【年通号数】公開・登録公報2008-006

【出願番号】特願2007-194267(P2007-194267)

【国際特許分類】

G 0 2 B 5/02 (2006.01)

G 0 2 F 1/13357 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/02 B

G 0 2 F 1/13357

【手続補正書】

【提出日】平成22年7月13日(2010.7.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(a) 光学要素と、(b) 該光学要素上に、マイクロビーズ及びバインダーを含有する光学的改変層とを有する光出射面を含み、少なくとも 1 . 2 0 の光学利得を有する光再指向性フィルム。

【請求項 2】

マイクロビーズがポリマー材料を含む、請求項 1 記載の光再指向性フィルム。

【請求項 3】

マイクロビーズが実質的に球形である、請求項 1 記載の光再指向性フィルム。

【請求項 4】

マイクロビーズが実質的に楕円形である、請求項 1 記載の光再指向性フィルム。

【請求項 5】

長軸径において少なくとも 1 . 5 マイクロメートル異なる二つまたはそれ以上のサイズ分布でマイクロビーズが存在する、請求項 1 記載の光再指向性フィルム。

【請求項 6】

前記マイクロビーズと前記バインダー物質との間の屈折率の差が 0 . 1 0 未満である、請求項 1 記載の光再指向性フィルム。

【請求項 7】

マイクロビーズと光学要素との間の屈折率の差が 0 . 1 0 より大きい、請求項 1 記載の光再指向性フィルム。

【請求項 8】

光出射面上に凸状の光学要素を有するフィルムを含む光学フィルムであって、該光学要素が少なくとも 2.5 マイクロメートルの長さ、直径または他の主要な寸法を有しており、並びに前記光学要素の表面が 1 . 0 マイクロメートルから 3 . 0 マイクロメートルまでの間の R_a 値を示す、光学フィルム。

【請求項 9】

光出射面上に凸状または凹状の光学要素を有するフィルムを含む光学フィルムであって、前記光学要素が少なくとも 2.5 マイクロメートルの長さ、直径または他の主要な寸法を

有しており、並びに、前記光学要素の表面が、前記表面粗さを伴わない同一の光学要素の配置に比べ、少なくとも 20 % の軸上光学利得の減少をもたらすのに十分な低さの R_a 値を示す、光学フィルム。

【請求項 10】

(a) 光学要素と、(b) 該光学要素上に、マイクロビーズ及びバインダーを含有する光学的改変層とを有する光出射面を含む光再指向性フィルムであって、角度が + 80 度から - 80 度までの間での水平方向角度輝度曲線の曲線下面積が、光学的改変層を伴わない光再指向性フィルムよりも 5 % から 15 % までの範囲で大きい、光再指向性フィルム。